

教科実践レポート

1年1組 社会科(地理的分野)

第3章 世界の諸地域

「アフリカの人々の暮らしとその変化」

授業者 萩原 直幸



研究実践のポイント

- 1 生徒が本気で取り組める課題設定と単元計画
- 2 本時の授業の工夫

1 生徒が本気で取り組める課題設定と単元計画

世界の諸地域は、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それをもとに主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる単元である。

そこでアフリカ州のことを理解し、アフリカの課題解決、発展について対話や議論を行うために本単元のゴールを

『アフリカの貧困を救うための解決策を提案する』と設定した。

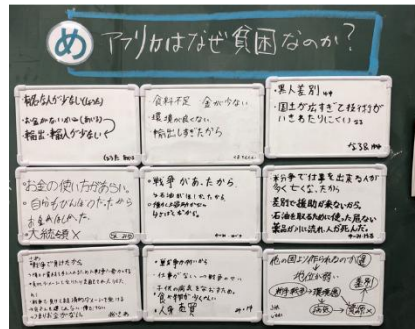


単元計画 各次のめあて

- 第一次 なぜアフリカは貧困なのか
- 第二次 アフリカが貧困になったのはなぜか～歴史から考える～
- 第三次 アフリカが貧困になったのはなぜか～カカオから考える～
- 第四次 アフリカが貧困になったのはなぜか～資源から考える～
- 第五次 アフリカの貧困を救うための解決策を提案する

第一次

生徒の興味と関心を引きつけるために、アフリカ州の貧困を表す指標として、1日に200円以下で暮らしている地域があることと5歳までの死亡率が96%になっている地域があることを紹介した。紹介する際には、「200円から発想できることは」や「96%とは何の割合だろう」と生徒に自由な意見を出させるなどの工夫を行い、単元の導入としての役割を意識して行った。アフリカの貧困を全体で共有した後に、では、なぜアフリカは貧困なのだろうという問いを投げかけて、自由な意見交換を行った。第一次の最後に、第五次には一人ひとりがアフリカ州のいずれかの課題に関心を示し、その課題から単元ゴールを達成できるようにしていくことを確認した。



ペアで予想を立てて、ホワイトボードにまとめています。

第二次～第四次

アフリカの貧困を各分野から考えていくめあてにした。各次ともまずは生徒が予想を立てた後に、資料からの読み取り等を通してアフリカの現状の理解を深めていった。それぞれのめあてに対して、振り返りを書く時間を確保し、単元ゴールである『アフリカの貧困を救うための解決策』を毎時間意識させた。

第五次

単元のまとめとして、個人で貧困を解決するために重要だと考える課題を選び、その具体的な解決策を提案した。

2 本時の授業の工夫



【導入】

生徒が主体的に集中して授業に参加するために、これまで学習したアフリカの課題を**全員に発表**させた。前時までの復習にもつながっている。

【展開1 個人思考前】

モニターに**例を出し**、生徒がどのように取り組んだら良いのかを示した。

【展開2 個人思考→中間評価】

各自が個人思考を行った。3分後に、ある程度書けている生徒2名を指名して**中間評価**を行った。この中間評価によって、自分の意見を書くことができる生徒が増えた。

【展開3 ペア・トリオ学習】

同じ分野の課題で

ペアもしくはトリオを組み、ホワイトボードに意見をまとめた。



【展開4 全体交流】

発表を聞くときに、ただ聞くだけではなく、**共通点**がないかを考えながら発表を聞いた。

【展開5 共通点の交流】

自分の考えと仲間の考えから共通点を出し合い交流することで、アフリカの貧困を解決するために**本当に必要なことは何だろうか**と、一人ひとりの思考を深めていった。



【展開6 事例の紹介】

生徒が考えた解決策と実際にアフリカの貧困を解決するために行われている支援等をモニターを使い、**照らし合わせた**。

【振り返り】

個人で振り返りを行った後に、参観してい

た先生のところに行き、振り返りを発表した。アフリカ州を学ぶ前と学んだ後の**自己の成長と自分事**として振り返りを行えている生徒に代表として発表させた。



3 成果と課題

◎成果◎

- ①単元ゴールに向けて逆算を行うことで、毎時間のゴールが明確になり、教師も生徒も見通しを持って活動できた。
- ②全員が解決策を提案することができた。
- ③一人ひとりが自分の課題として主体的にとらえて、仲間の意見を聞きながら振り返りまで到達した。

△課題△

- ①数値などの根拠をもとにして解決策を提案することができていない。
→普段の授業のときに、「理由は～です。根拠は〇〇です。」という型を練習することで根拠への意識を高めたい。
- ②単元ゴールを見通した単元の導入の授業が難しい。
→生徒の実態から実物教材や身近にある教材等を準備して疑問を持たせたり、インパクトを与えたりするよう研究していく。